

A-19

子嚢果の形態と地衣成分パターンで識別された日本産地衣類タラヨウノビツソロマ内の4グループ

○宮澤研人¹⁾・大村嘉人^{1,2)}・茶木桃華³⁾・山岡裕一¹⁾・岡根 泉¹⁾ (1)筑波大学；
2)国立科学博物館；3)広島市)

Four groups within *Byssoloma subdiscordans* distinguished by the morphology of apothecia and the chemical profiles in Japan by K. Miyazawa¹⁾, Y. Ohmura²⁾, M. Chaki³⁾, Y. Yamaoka¹⁾, I. Okane¹⁾ (1) University of Tsukuba; 2) National Museum of Nature and Science; 3) Hiroshima-City)

タラヨウノビツソロマ *Byssoloma subdiscordans* (ヤシノアオバゴケ科) は、世界各地の亜熱帯から温帯まで広く分布し、生葉や樹皮、岩など基物が多様である種である。本種の形態については、地衣体や子嚢層の厚さ、子嚢盤の色などの形質に幅広い変異が報告されている。また、地衣類の重要な分類形質の一つである地衣成分については、一部の試料からの情報に限られており、ノルスチクチン酸 (Nor) とキサントン類のみが報告されている。しかし、それらの形質の変異に関して、これまで十分に検討されてこなかった。そこで本研究では、*B. subdiscordans* の分類学的再検討を目的とし、その詳細な形態、地衣成分、共生菌の分子系統 (nrITS, nrLSU, mtSSU) を比較検討した。日本産標本約 40 点を検討した結果、共生菌の分子系統で支持され、以下の子嚢果の形態と地衣成分パターンで識別される少なくとも 4 グループが認められた。すなわち、グループ①は凸型黒色の子嚢盤と狭い綿毛状の縁を伴う子嚢果、ロバール酸 (Lob), Nor (±), 未同定成分 US1, US3, US5? (±), US6? (±) ; グループ②は凸型黒色の子嚢盤と広い綿毛状の縁を伴う子嚢果, Lob, Nor, US2, US4 ; グループ③は凸型灰黒色の子嚢盤と広い子嚢果, US1, US2 ; グループ④は凹型黒色の子嚢盤と広い綿毛状の縁を伴う子嚢果, US1, US2, US7 で特徴づけられる。以上、各グループは形態、生理、遺伝的な違いが認められたことから、それぞれ独立した種として扱うのが妥当である。